No. 10　October. 2011

「グローバル社会に対応する女性研究者支援」プロジェクト

http://www.erp.sophia.ac.jp/Projects/wrsupport/

NEWSLETTER

目次：

女性研究者支援について思うこと　P1

第6回男女共同参画セミナーを開催　P1

女性研究者支援事業補助金による研究支援員雇用（2011年3月まで）を全学教員に拡大します！　P1

Alice Huang博士来日記念特別講演会を開催　P2

英語による研究発表練習会を開催　P2

第10回女子学生キャリアアップ支援コロキウムを開催　P2

女性研究者支援について思うこと

人事担当理事　杉本徹雄

本学が「グローバル社会に対応する女性研究者支援」事業に取り組んでからすでに3年目に入っています。この間、女性研究者支援事務局の皆様を始め、関係各位のご努力でさまざまな取り組みや啓蒙活動がなされていることを高く評価しています。

本年度は、男女雇用機会均等に係る法律の女性労働者措置に関する特例によって、理工学部では女性教員優先採用枠を設定し、教員公募が行われています。女性研究者の業績の評価は性別による分け隔てがなく、就職の機会は均等であることが大前提です。しかしながら、国際比較でも研究者に占める女性比率が著しく低い日本において、このような公募はこれからの男女共同参画の基盤を整備していく上で必要とされる対応だと理解しています。

幸い、上智学院では比較的早い時期から出産・育児・介護等に係る人事制度を整備してきました。他方、学生と話していますと、ジェンダーに関わる意識や行動についてかつてとはたしかに変化してきたものの、今なお、かなり保守的、伝統的な価値観に縛られていると感じることがよくあります。実りある男女共同参画を実現するためには、制度設計だけでは必ずしも十分ではなく、人々の心理社会的な側面について現状をあらためて認識し、さらに自由な議論ができる土壌を築いていく必要があると感じています。

第6回男女共同参画セミナーを開催

上智大学長が語る 私の女性研究者支援とワーク・ライフ・バランス

体験談を述べる
滝澤学長

2011年10月6日（木）、滝澤　正上智大学長講演による第6回男女共同参画セミナーが行われ、教職員・学生をはじめ約50名が参加しました。

滝澤学長は、在学当日の東京大学法学部の女子学生が少なかった状況や、就職した上智大学法学部でも女性教員が少なかったことを振り返り、現在は法学分野に女子学生・女性教員が増加したことを述べました。

続いて、大学院時代に学生結婚し、共に大学教員となってからの体験を話しました。食事の支度や買い物、子供の学校行事への参加等、学長が積極的に家事に関わってきたことを具体的なエピソードを交えながらざっくばらんに紹介しました。各エピソードからは、特別なことをしてきたのではなく、研究者同士の結婚生活を支え合うために、できることをやるという終始自然体な姿勢で、家事・育児に携わってきた様子が伝わってきました。

最後に、今後の女性研究者支援の推進のために、意識改革と制度の整備の大切さについても触れられ、講演を締めくくりました。

NEWS!!

女性研究者支援事業補助金による研究支援員雇用（2011年3月まで）を全学教員に拡大します！

子育て中の教員のための研究支援員雇用を理工学部教員を対象に行っておりましたが、このたび文部科学省の通達により、標記補助金による支援を他所属の教員にも拡大することが可能となりました。新たに全学教員を対象に募集を行い、2011年11月～2012年3月の期間について支援員配置を開始することとなりました。

米国科学振興協会(AAAS)会長
Alice Huang博士来日記念特別講演会を開催
“Diversity and Diplomacy in Science: A Necessity for Future Success”
主催：独立行政法人理化学研究所　共催：上智大学

Huang博士

ユー学術交流担当副学長

2011年10月7日（金）、上智大学国際会議場にて、世界的に権威のある科学雑誌 “Science”を発行する米国科学振興協会の会長を務められているAlice Huang博士をお招きし、特別講演会を開催しました。Huang博士の夫であるノーベル賞受賞者のDavid Baltimore博士及び理化学研究所の野依良治理事長も同席されました。

Huang博士は、科学技術分野でアジアが果たす役割の大きさを述べ、その実現のためには、国を超えた人的・学術的交流が必要であること、多様な人材が研究・教育に従事することの重要性を指摘され、それらがイノベーションにつながると述べられました。

また、女性やマイノリティが自立して地位を確立していくためのポイントの一つとして、メンターを持つことの意義にも触れられていました。 質疑応答では、米国における女性支援と逆差別の質問等も挙げられ、Huang博士は米国の現状や、男性と女性の本質的な違い等丁寧にご説明されました。

学内外の研究者をはじめ
およそ150名が参加

英語による研究発表練習会を開催

学術成果発信支援において、国際学会等で英語発表をする学生がプレゼンテーションの練習をし、英語表現や発音等に関するアドバイスを受け、発表力を向上させることを目的として行い、7月から9月まで4回の練習会で、計12名の学生が参加しました。

尾崎　ヴァレリー教授（国際教養学部）、リンダ・グローブ名誉教授の他、理工学部教員もアドバイザーとして加わり、英語表現や基本的なプレゼンテーションの行い方、効果的な資料の見せ方等について、アドバイスを行いました。

参加学生からは、「自分で発表することは良い経験になった。また、発表に対する先生方のコメントから、何を工夫したら良いかを学ぶことができた。」、「他の学生の発表内容のレベルの高さに驚きつつも、自分自身にとてもよい刺激となった。」等のコメントがありました。

発表会の様子

第10回女子学生キャリアアップ支援コロキウムを開催

ジョンソン教授と個別面談を行う様子

2011年9月29日（木）、上智大学オープン・リサーチ・センターと共催にて、第10回女子学生キャリアアップ支援コロキウムが行われました。今回は、音声科学の分野においても大変著明なキース・ジョンソン教授（カリフォルニア大学　バークレー校）をお招きし、講演及び女子学生との研究交流会を行いました。

研究交流会では個別面談も行われ、研究内容、海外留学を考える女子学生にどのようなステップがあるのかについて等、キャリア形成のための具体的な話をしました。

ジョンソン教授自身は、「学部から修士、博士課程の指導教授がすべて女性であり、今まで、恩返しができなかったと思っていたが、今回、このように女子学生の面談を受けることができて、大変嬉しく思う。」とのことでした。また、今後も円滑に交流できるようグローバルメンターとして登録もして下さりました。

参加女子学生からは「新たな道が見えてきた感じがする」、「研究相談ができて大変嬉しい」等の声が寄せられました。

編集後記

男女共同参画セミナーは、今年度最終回でした。学長の体験談を直接聞くことができる最終回にふさわしい大変貴重な機会となりました。学長のお話を伺い、まずは「自分ができることに取り組む」ことの大切さを改めて感じ、このスタンスが「ワーク」、「ライフ」両面において、忙しい日々の中でも、心にいつも留めておくべきベースだと再認識しました。

問い合わせ・連絡先：
上智大学女性研究者支援事務局

102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1
場所：10号館3階315号室
電話：03-3238-4052　mail：wrsswg@sophia.ac.jp
http://www.erp.sophia.ac.jp/Projects/wrsupport